

全体会の記録

1. グループ討議内容の発表

グループ（ア）

参加生徒：4人、コーディネーター：寺田理事、討議テーマ：「紛争と平和」

戦争をなくすためには、国連の常任理事国の拒否権をなくしたり、自分たちの自衛のための権利である自衛権をなくすことが一番戦争を減らすことにつながるのではないかという話になりました。そこで、西川先生にお尋ねしたところ、拒否権をなくすには常任理事国5か国全ての賛成が必要だけれども、常任理事国は拒否権は必要だと考えているので、なくすことは難しいということが分かりました。また、自衛権をなくすと侵略国が増えて、小さい国や力がそれほどない国が不利になってしまうということが分かりました。そして、貿易を盛んにすることが平和につながるので、戦争ができないような関係づくりを貿易で作っていくことが大切だということが分かりました。

私たちにできることとしては、留学などして他国の人と関わることで国際的に視野が広がって少しでも戦争を減らすことになるのではないかと思いますので、できることから挑戦していきたいと思います。

グループ（イ）

参加生徒：5人、コーディネーター：加藤理事、討議テーマ：「紛争と平和」

まず、分かったこととして、特に2つお話しします。国によって平和の考え方は違うというのは、さっきお話があったんですけど、特に宗教色の強い国だと、自分と神との関係から平和を考えていて、日本みたいな多宗教の国は人間関係の平和が平和の概念になるということを学びました。2つ目は戦争についてです。戦争が早く終わった方が良いというのはもちろんなんですけど、早く終わらせるためには負けてもいいっていう考えもあれば、将来のことを考えたらどんな犠牲を払っても勝ちたいっていう考え方もある。今戦争が行われている国では両方の意見があるってということを学びました。

グループでは、移民の受け入れについても話し合いました。移民の方でも日本に来て亡くなっている人もいるのに、ウクライナの人には特に丁重に扱われているということがあったので、そのことについて話し合いました。結論として出たのは、ウクライナについての情報は、ニュースなどで多く取り上げられているから自分たちが知っている。だからみんなの関心があって受け入れられやすいっていうものもあるのではないかということでした。また、ハイブリッド戦争については、情報操作があるので、正しい情報は何かということを自分たちで考えることが大切だということがありました。

自分たちにできることとして、自分から積極的に知ろうとすることが大切だということが分かりました。例えば、戦争の語り部の人の話を聞いたり、沖縄の「ひめゆりの塔」みたいなところに自分から訪れて情報を仕入れる。自分で積極的に情報を仕入れるということが消極的な平和から積極

的な平和の実現につながるのではないかと思います。

グループ（ウ）

参加生徒：7人、コーディネーター：山田愛知淑徳大学教授、

討議テーマ：「地球温暖化問題」

地球温暖化はただ環境について考えるだけではなくて、経済と環境の釣り合いっていうところから、改善していくことにも難しさがあるということが分かりました。それでも、環境はティッピングポイントという、これ以上水位が上がったり温度が上がったりすると後戻りできないところになってしまう瀬戸際のところに今はいて、先人たちがいろいろ解決策を考えてくれたり、いろんな知識を蓄えてきてくれたので、若い私たちの世代は地球温暖化という環境問題をたくさん知っていて、ここから解決策に移して、どんどん行動に移していくことが大切だということを討論しました。

できることとして、私たちはまず海外などに行って、さまざまな見識を広げることも大切だということを話しました。いろんなところに行って、その価値観や、違う国の文化とか考え方とか、いろんなものを知ることができるので、そういった経験から多様性とか視野が広がるというところにつながっていくのだと思います。こういった視野を広げるということは、環境問題とか地球温暖化だけではなくて、SDGs、その他の持続可能な社会に向けて、今ある課題全てに有効な考え方なんだということが分かりました。

最後に、私たちのグループでは難しいことだけではなくて、明日からできる小さなことを発表していきました。その中では、まずエアコンの温度を上げる、そういったことを身近な人、弟とか家族とかに呼びかける。部活動で食材を扱うので食材管理の観点から無駄買いをしない。食品を買うときにサステナブルラベルがついている食品を買ってみる、自分の家が海に近いので、SDGsの海の豊かさについて参加できるようなイベントをSNS、ネットを通して探して参加してみる。今日もらったカトラリーセットがせっかくあるので、カトラリーセットを使って、外食とかでは、割り箸を使うんじゃなくて、自分が持ってきたマイ箸を使って食事をする。学校で食べている弁当では、いつも割り箸を使っているけど、自分でマイ箸を買って箸に移行したりするなどの意見が出ました。これらは全部、明日から私たちがちょっと頑張ればできるようなことなので、こういうことを小さな一歩でも実践していこうと思います。

グループ（エ）

参加生徒：6人、コーディネーター：金子瑞陵高等学校教頭、

討議テーマ：「多文化共生」

多文化共生をしていくために私たちが考えたのは、日本にいる移民の方とコミュニケーションをとって、お互いの文化を知り合うということです。異文化を知るといえるか、受け入れるためには自分たちの文化とか日本の文化を相手に知ってもらおうということが大切だということが分かりました。また、日本はまだまだ移民の受け入れが海外と比べて少ないことが分かりました。オーストラリアでは、白豪主義から多文化主義に変わったのですが、それは人口減少が課題で、人口減少を解決す

るために多文化主義に変わったということが分かりました。そこで、日本も人口減少が進んでいるので、人口を増やすため、移民の方を受け入れるのが大切かなと思います。また、日本では難民認定が厳しくてなかなか受け入れられていないのが問題なので、そこを改善する必要があると思います。最後に、文化には優劣がないので、日本の文化も他の文化もお互い尊重しあって同じコミュニティで共存できるような多文化共生を目指していきたいと思います。

2. 講師のコメント

西川講師

今日、皆さんの議論、討論を聞かせていただいて、皆さんは本当にいろんなことを深く考えているなと思いました。日本の教育は、中学も高校もそうですけれども、すごくしっかりしているので、皆さんはたくさんの知識を得られますが、高校を出られる頃には皆さんぜひ外に出て、いろんな人に会って、いろんなところに行ってください。高校までに十分な知識があるので、今度は実践で人に会って、人と揉めることもあると思うんですけれども、その中で自分なりの解決方法を探したり、自分と違う国の人と接することによって、宗教が違う人とか考えが違う人とかと接することによって、新しい考え方や新しい知見が得られると思うので、ぜひ外に出て人に会って他の国に行ってみて、いろんなことを経験してみてください。行く前にあまり考えすぎるとだんだんしんどくなってくるので、ぜひあまり考えずに挑戦するというのをやってみてください。そういう自分の経験の中から、最終的には自分にとって平和が何なのかな、戦争はどうしていけないのかな、じゃあ、どうすれば戦争を予防できるのかなってということがだんだんと知恵がついて分かってくると思いますので、ぜひ高校を出たらいろんなことを実践してみてください。今後の皆さんのご活躍を心より期待しております。今日はありがとうございました。

稲垣講師

今日は本当にありがとうございました。先ほどグループ討議の結果を発表していただいた方も、何を議論したかについてうまくまとめてお話しいただいて、本当に感激しました。ありがとうございました。今日、私は地球温暖化と生物多様性の話をしましたけれど、まだまだこの地球上には、ごみ問題、あるいは水問題、あるいは森林の保全とかですね、課題がいっぱいあります。こういうことをぜひ皆さん方、身近なものとして捉えて頑張ってくださいとありがたいなというふうに思います。

最後に、全く環境とはかけ離れていますけれども、さっきのグループ討議の中でも、私は自分の経験を話させていただきました。皆さん方は高校生ですから、高校を卒業して大学へ行かれ、あるいは社会に出られると思いますけれど、ぜひいろんな異文化に触れていただきたい。日本の文化だけでなく、異文化に触れ、それによって経験を増やすということをお願いしたいなと思います。私が大学にいたときに若い学生たちに最後にいつも言っていたのがそのことなんです。ぜひ異文化に触れてもっと視野を広げていただきたいし、自分自身を大きな人間にしてほしいなと思います。それをお願いしてまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

佐藤講師

今日は本当に充実した一日になったと思います。グループ討議では、皆さんが活発にいろんなお話をしてくださいました。私は、今日、授業でいろんなことをお伝えしたいと思い、かなりの部分を話さないでいたところ、しっかりと疑問点として捉えてくださっていました。例えば、愛知県にはブラジル人が多いという話をしたときに、なぜ愛知県にブラジル人が多くやってくるのか、なぜ日系人がブラジルにいるのかということも疑問点として挙げてくださいましたし、日本は難民の認定率が1%以下だが、ウクライナからの人たちは避難民として人道的な措置として受け入れている、その差は何だろうかとか、ドイツなどは非常に多くの難民を受け入れているのですが、なぜ日本との間にそうした違いがあるのだろうかとか。その他にも、技能実習生が日本のいろんなところで働いていて、その人たちの環境が非常に良くないということを報道で見ているけれども、なぜ改善されないだろうかということもお話をしてくださいました。

また、文化交流というけれども、どんなふうに始めたらいいのかも聞かれましたので、例えば、盆踊りへ行くときに、近隣にいる、あるいは友達の外国の人たちにも一緒に行こうよと言ってあげれば、そこから交流が始まるのではないかと話しました。そして、その時に盆踊りにはどのような伝統があるのかとか、お祭りはどのようにして始まったのかとか、そんなことも少し付け加えて、それも英語でお話ができるようになると話も弾む、英語ができない人だったら、やさしい日本語でちゃんと歴史や伝統の話も付け加えてお誘いするのも一つの大事な一歩ではないかということをお話しました。イベントをお互いに比較することから始めると自分の文化も伝えることにつながるのではないかと言いましたら、そうですよねってたくさん同様に言っていただきました。

国際交流と多文化共生の違いは何だろうという投げかけをしておいたら、ちゃんとそれを考えていて、私が期待していたお答えをしてくださったので、皆さん高校生でここまで考えてくださっているということで嬉しい驚きと発見がいっぱいある時間になりました。ありがとうございました。

生徒感想文

特別講座を受講した生徒の皆さんから、後日メールで提出いただいた感想文を紹介します。

なお、掲載に当たって、原文尊重を基本としつつ、文意を損ねない範囲で一部字句修正・字数調整を行っております。

生徒 A

私は高校で国際コースに所属しており、日頃から様々な国際問題について学ぶ機会が多いのですが、今日の講座では学校では取り扱われない専門的なところまで教えていただけたので参加してよかったなと思っています。

特に私は多文化共生の授業が興味深かったです。私は異文化理解や多文化共生について興味があり日頃から調べているのですが、日本はまだ移民の受け入れが他国と比べて非常に少ないことに疑問を持っていました。私は人口減少を防ぐためにも移民を積極的に受け入れるべきだと考えています。しかし佐藤さんのお話を聞いて、日本にいる移民の方への待遇も見直すべき点が多いことが分かりました。またオーストラリアが多文化主義という政策をとった背景に日本と同じ人口減少があったことに驚きました。日本はまだ多文化共生できていないと思ったので、これから日本がどのように変わっていくべきか考えたいと思いました。

生徒 B

私は今回の講座に参加して、普段見ているニュースでは知ることのできないより深い内容を学ぶことができ、とても貴重な時間を送れた。

特に印象に残った講義は西川由紀子さんの「対立の時代に生きる」だ。国連憲章では自衛のためなら武力行使を認めているが、戦争を経験した人はいかなる理由があっても戦争は良くないと思っているということを聞いた。このことから、戦争や紛争の問題をどのように改善、対処していくのかを見つけることは難しいことだと痛感した。

国際問題や環境問題は私一人では何も変わらないと思っていた。しかし、世界の状況を調べ異なる視点を知ったり、使い捨てのものを使わないようにしたり、簡単なことから始め、家族や友達など身近な人に伝えていくことが大きな力になることが分かった。

私は今回の講座を受けて、将来海外に行き、異なる考え方を味わいたいと感じた。また、行動力を高め、この地球を守るために責任感を持たなければならないと感じた。

生徒 C

今回の講座を受けて共通して感じたのは世界の広さです。僕は日々の勉強や部活で精一杯生きていると思っていましたが、いや、恐らく精一杯生きているのだと思います。しかし世界には明日は生きていられるだろうかと心配する人やゆくあてがなく母国に帰れない人もいます。もちろん彼らと僕たちでは住んでいる地域、人種、考え方が大きく異なります。ですが同じ地球人であり人間です。そしてその多くの人たちは僕たちと同じように平和を望んでいます。

平和という言葉にはたくさんの意味があるということを講義で教えていただきましたが、僕なりに平和というのは「毎日生きるのは大変だけどなんだかんだでやっていける」というのだと思います。世界にはこの「なんだかんだ」というのができていない人がたくさんいます。これを実現するために今、僕たちにできることを考え行動していきたいと感じました。

生徒 D

今回の講座では、普段の生活の中であまり意識しないようなことに気付かされるお話を聞くことや、他校の方とのグループ討議をすることができてとても貴重な時間を過ごすことができました。近年よく耳にするSDGsを私自身、難しく考えていましたが実はそうではないと気付かされました。

戦争、紛争・平和、地球温暖化や多文化共生についての講義を通して、これらの解決のために私たちができる根本的なことは同じで、自分から積極的に知ろうとする努力や、それをもとにした正しい判断をすることが私たちに必要なことだと考えました。

争いが起きないようにするためには、地球環境を守るためには、全ての人が平等に生きていくためには、自分とその周囲との関係について理解しようとする努力、そこから自分の思考を働かせ分別ある行動をすることが重要であると思いました。お出かけの際に、自転車で行こうと考えることや、海外の人と接する際に文化について調べてみるなどできることはたくさんあります。その小さな配慮の積み重ねが SDGs の解決の大きな一歩になると思います。これからは、それらのことを意識しながら生活していきたいです。

生徒 E

今回の講座を通して、一番心に残っていることは稲垣先生の地球温暖化についてです。

僕は小学校の時から今の今まで地球温暖化について自分なりに調べてきたつもりです。ですが、同じような情報ばかりで知識にしても活用することができず、どんな社会にするために何をしたらいいのか分かりませんでした。そのような時に、稲垣先生の講義を聞き、今まで想像したことのない考え方を知ったことで、ただの知識が一つずつつながっていき、地球温暖化への理解を深めることができました。

今回稲垣先生から教えてもらった改善策をまずは家族に、そして学校のみんなに、どんどんいろいろな人に伝え、実践していきたいです。持続可能な社会を実現できるように少しずつ努力していきたいと思います。

生徒 F

今回の講座に参加できたことは、私にとってとても良い経験となりました。

特に「紛争・平和」についての講義で学んだ平和のタイプについてのお話がとても印象に残りました。私が今まで考えていた平和は、争いがなくみんなが平等であり幸せであるというものでした。しかしこのような積極的な平和を達成するのは極めて難しく、それよりもまずは戦争や争いがない状況である、消極的な平和を求める人も多いのだと知りました。私は生まれてから今まで大きな争いのない日本で生活してきたため、戦争という言葉についてあまり実感が持てないからこそ、平和についての理想が高くなったのだと思いました。

今回の講座を通して、私の視野は狭く考えが固定されているように感じました。そのため今後の生活では普段から新聞やニュースなどで世界の情報を知り、一つの情報の全てを受け取り信じるのではなく、多くの視点から情報について正しく捉え、知識をつけていきたいと思います。

生徒 G

私は今回、様々な講師の方のお話や授業を通して成長することができました。加藤先生の戦争体験のお話からは改めて戦争の怖さや不平等さを実感しました。私は二度とこのような悲惨なものを繰り返してはならないと思いますし、戦争を起こさないように私たちも今より日本のことをはじめ、世界のことをもっと知る必要があると思います。

また、私は佐藤先生の授業がとても心に残っています。佐藤先生の授業では、多文化共生とは何かについてよく考え、それぞれの国の宗教、文明、その違いについても私たちは深く学びました。とても細かく多文化共生について学びました。世界が繋がるためにはきっと、先生の授業で広がった細かい多文化共生の見方をする必要があるんだと思います。他校の生徒の意見やグループ討論など様々な学びを私たちに与えてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

生徒 H

参加したきっかけは元担任の先生からのお誘いでした。私が興味のあることかもしれない、ということと、他校の高校生と話を交わすための良い機会だということ。なかなか聞けない話が聞けて、とても自分のためになるものでした。他校の生徒との話し合いも、意外な観点や答えの導き出し方

があり、聴いていてとても興味深いものでした。私はおよそ9年間をアメリカで過ごしてきたので、愛知の高校生や教授がどのようなことをお考えになっているかということに関してはとても興味がありました。海外の生徒や教授との理解度の違い、そして考え方の違いを見極めたかったので、参加することにしました。

当日配られた資料ですが、紙がとてももったいないと私は感じました。せっかくQRコードやネットが使える環境が整っているので、PDF 状の資料を事前に参加者に配り（又はPDF にアクセスできるQRコードを会場に置き）、携帯の画面で見ることを可能にし、携帯がない参加者に対してのみ紙の資料を渡すことをすれば、紙の無駄は削減できるはずです。その上で、メモを取りたい生徒には白紙を渡すと良いのかもしれませんが。

素晴らしい先生方と話ができる時間をいただくことができて私はとても幸せでした。これからもどうか愛知の未来を支える力であってください。

生徒 I

特別講座に参加させていただき、とても貴重な経験となりました。はじめに、加藤先生の5分早く行動していたら空襲に遭って死んでいたかもしれないなどの戦争の実体験のお話を聞いて、戦争の恐ろしさを改めて感じました。さらに、戦争のお話は聞き手の私たちも辛く悲しくなりますが、だからこそ戦争体験を思い出して語る戦争体験者の本人はどれほど辛く悲しい思いを抱いているのだろうと、戦争が与える心の傷の大きさも実感しました。

また、私は講座に参加するまでは武器がなくなれば戦争は減る、貿易は国同士の資源の交換などといった軽い考えしかできていませんでした。しかし西川先生のお話を聞いて、武器がなくなれば、小さい国が侵略されやすくなってしまうことや、貿易をして互いが依存関係になることで平和を保つことを知ることができました。

今回の講座で聞き学んだことを、大学での講座や討論で、未来の国際関係について考える上でたくさん活用していきたいと思います。

生徒 J

大変貴重な時間を過ごせたと思います。

佐藤久美教授の「多文化共生」の講義が強く印象に残っています。今回の特別講座に参加することで、国際問題に対する自身の考えの浅さ、関心の薄さを強く感じました。私は今まで、国際問題といえば難民問題や紛争問題など、諸外国の話だと思っていましたが、講義の後に行われたディベートにて日本の外国人技能実習生に対する課題と戦争難民の受け入れ問題などがあることを知り、国際問題の解決や多文化共生社会の実現に向けて何か自身にもできることがないかと考えるきっかけになりました。

自分の視野を広げられるとても貴重な経験ができました。

生徒 K

特別講座を受講し、今世界で起きている様々な問題を知ることができました。特に印象に残っていることは、「朝ごはんをゆっくり食べられることは平和なこと」という言葉です。講座を受けてから約1か月が経っていますが、今でも心に残っています。初め聞いた時、すぐには理解できなかったのですが、後々ゆっくり考えてみるとその意味が分かり、今の自分の生活がどれだけ平和なのか改めて思い直すきっかけになりました。生活する中で、あまり平和について深く考えることがなかったため、今ある日常は日本では当たり前のことでも、世界で見れば当たり前なんてことはなく、すごく平和なことなんだと再確認しました。

また、環境問題についての講義を聞いた際、今平均気温が上がっていて地球温暖化と言われているが、それは間氷期なんだと思っていてあまり深く考えていませんでした。しかし異常気象などの話を聞き、本当に地球温暖化の原因が私たち地球人にあると知り胸が痛くなりました。地球温暖化の原因は私たちの意識の低さにあると気づきました。講義の中で先生がおっしゃった、エアコンの

温度などといった身近にあることを始めていこうと思いました。

他にも、国同士の問題には宗教が絡んでくることがあることに驚きました。今回の講座で、今までの自分の中での常識が大きく外れていたことに気づきました。私は大学で国際関係について学びたいと思っているので講義を聞いたことを忘れずに、深く学んでいこうと思いました。

生徒 L

ここで学んだことで、地球環境保全のためにエアコンの温度を27度以上にするのを、別の高校の友達にも共有し、私自身もその日からずっとそうしてきています。一般の人が毎日、速くないこと、安くないこと、上手くできないこと、美しくないこと…にムカついて、こだわって、争っている。その悪影響は、貧しい人々、植物、人間以外の動物たち、その他の地球の物質、そして生まれている生命などにも及ぶ。私たちは迷惑をかけているのです。まずはそのことを自覚し、その問題の解決のために死力を尽くさなければなりません。その後で、勉強や遊びやお金のことを考えなければいけないと思いました。

また講座が終わって、具体的に考えたこととして、例えば地域で年に数回車を使わない日を設けること、企業が休みを取りやすくすることで経済発展主義に抵抗すること、教育にボトムアップ方式や専門家の公聴会を導入し、外部講師の雇用を増やすことなどが挙げられます。これによって、生徒の主体的な学びを建設的に進め、一人ひとりの質を向上させることができるかと思います。これを読んでいる高校生が上記の文章を読んで何かを思うことがあった場合は、その感想を周りの人に伝えてみたり、ネット上で共有してみたり、文章にまとめてみてください。わたしたちの行動ひとつで、日本や地球が変わる可能性があると思っています。

私は様々な可能性を試していきたいと考えています。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。全力で人生に役立てます。

生徒 M

特別講座に参加して、本当に貴重な体験をさせていただきました。他校の高校生や大学の教授方と討論ができたので、たくさんの方を見方を学ぶことができました。そして、特に心に残ったのは戦争を経験された加藤先生にお話をいただいたことです。今まで、私は実際に戦争体験のお話をじかにしていただいたことはありませんでした。もちろん自分自身も戦争を見たことはありません。だから、軍国教育や空襲といったものが身近にある状況は想像するにも限りがありました。けれども、加藤さんの特に空襲体験のお話を聞いて、本当に咄嗟にとった行動の差が生死を分けてしまうことに恐怖を覚えました。その恐ろしさは自分の体験ではないものの、今までの私の感覚よりもずっと緊迫したものでした。

討論では、紛争・平和について話し合いました。改めて、課題解決の難しさを感じましたが、グループに参加していただいた西川先生も正解のない討議に真剣に向き合ってください心強かったです。

この講座に参加したことで、社会に携わっている方々と交流することができ、自分の見ることのできる世界が広がった感じがしています。素晴らしい機会を用意してください本当にありがとうございました。

生徒 N

地球温暖化と多文化共生・難民問題についての講義を聞き、グループ討議に参加し、これらの問題を考える機会を得たことは、私にとって非常に貴重であり、多くの気づきをもたらしてくれました。

地球温暖化問題について学んだことで、私は地球環境への影響とその深刻さを理解しました。私たちの生活の中で意識的にエネルギーの使用や廃棄物の処理方法を見直すことは緩和する上で重要なことであると思います。日常の小さな取り組みが大きな影響を与えることに気づきました。多文化共生・難民問題についての講義では、異なる文化や背景を持つ人々が共存する社会の重要性が強調されました。自分の力を誰かのために使うことができる人間になりたい、とこの講義を通し

深く感じました。

高校生として、私が今後地球社会が抱える問題に対してできることはたくさんあることをグループ討議を通し他の高校生からも学ぶことができました。

私たちは一生涯を通じて学び続け、行動し続ける必要があると考えます。私たちの小さな行動が未来の地球社会をより良い方向に導くことを信じて、一歩ずつ進んでいきたいと思います。

生徒 O

私がこの特別講座で学んだことは、SDGs が以前よりもより身近になったということです。私はこれまでニュースなど様々な情報発信の場で SDGs について取り上げられているところを目にできました。しかし、それらは日常でできることというよりも、世界的規模で考える難しいものばかりで、興味もひかなかったし、なにより達成できないのではないかとマイナスに考えてしまうことがほとんどでした。

ですが、今回の講座に参加させていただき、SDGs に対しての気持ちの向き方が変わりました。なぜなら、それぞれの目標ごとに達成するための日常生活でできることがあるのを知ることができたからです。例えば、飲食店でお箸を利用するときは割り箸ではなくマイ箸を利用することです。私はこの取り組みを聞いたときに、正直必要ないのでは？と思いました。しかし、これは私の思い違いで、割り箸も1回使ったらゴミになってしまうので環境にいいとは全く言えないことがわかりました。

このように私は今回の講座を通してたくさんのことを学ぶことができました。これから未来を切り拓いていく1人の人間として環境に配慮した生活を心がけていこうと思います。

生徒 P

今回の講座で私が特に印象に残ったお話が2つあります。

1 つ目は加藤さんが学生時代に経験された戦争体験のお話です。加藤さんの御友人が空襲で亡くなられたこと、血の池を目撃したこと、日本が戦争に負けたことを実感したこと、加藤さんのお話は私の頭に情景が浮かび上がるほどに詳細で、加藤さんが70年以上たった今でも鮮明に覚えているほど戦争というものは経験した人に深く刻み込まれているものなのだと改めて感じました。

2 つ目は稲垣さんの地球温暖化についてのお話です。地球温暖化対策、SDGs の達成の実現には、環境保護、経済開発、社会の平等の要素のバランスがとれていないといけないというお話では、現在、世界の国々で環経済発展が優先され環境保全が蔑ろにされている状況と関わっているなど考えさせられました。

今回の講座で私は知っているつもりで知らなかったことを深く知ることができ、とても良い機会をいただいたと感じました。また、まだまだ知らないことがあると感じ、自分の周りの出来事について深く考えられるような人になりたいと思いました。

生徒 Q

自分は学校での SDGs 関連の授業で環境問題についての対策を考えているので、なにかその手が必要になるものはないかな、という気持ちで講座に参加した。講座を終えて、自分はいろんなことを学べたが、その中でも話をしてくださった方の中での発言「みんな難しく考えすぎている」という言葉にすごく共感というか、感心した。

今回は環境問題についてだけでも、どんなことについても同じことが言えるのではないかなと思ったからだ。例えば、知らないひとたちと集まりグループトークをする前、高校一年生でどんなことを言えばいいのだろう、自分は話に参加、ついていけるかな、と不安だったけれど、実際はそんなことはなく、自分の思ったことを言えば大人の方々が“そうだよね”とフォローしてくださる温かい雰囲気だった。そしてそれを今回のテーマに関連付けると「難しく考えず、今できること、小さなことでもやっていく」ということが言えるのではないかなと思う。

小さな努力の積み重ね、塵を積もらせることが地球温暖化や環境問題では重要な一歩であること

を自分はこの講座で学ぶことができたと思う。

生徒 R

戦争と平和についての講義では現在の国の対立状況から戦争を規制するルールについて知ることができて面白かったです。大きな戦争が起こるごとに戦争をなくすための条約が作られ、対策が取られているけれども、まだ戦争は絶えず起きていて、より対策を強化しなければならないと分かりました。ただ戦争を止めるだけでは十分とはいえず、紛争を予防することが重要だと気づきました。特にこの講義で興味深かったのは、各国で「平和」についての認識が異なるということです。宗教、文化が違えば実現したい平和も違うから、そこを互いに認め合うことが必要なのだと思いました。

また、多文化共生についての講義では日本にいる外国人の推移についても知ることができて面白かったです。日本は少子高齢化の問題もあり、これからより多くの外国人を労働者として受け入れなくてはならない状況になると思うので、彼らをただの労働力として見るのではなく、1 人の市民として対応し、理解を深めていくことが必要になると思いました。

生徒 S

西川先生の講義では、紛争の数が増えていること、みんなが平和に暮らせることとは精神的にも充実している状況だということを知り、私も戦争について考えていくべきだと感じました。

佐藤先生の講座では、多文化共生は異なる文化や背景を持つ人々の相互理解によって豊かな社会を築くことだと知りました。私も多くの文化や言語を学び、多くの人と交流して、国際理解を発展させることに関わりたいと思いました。

稲垣先生の講座では、マイ箸やごみの抑制など日常において私にもできる取り組みがあると知りました。SDGs は世界が共通して取り組んで達成できるものだと感じ、私も意識して小さなことでも行動していこうと思いました。

グループ討議では多文化共生について話し合い、みんなのいろんな視点から刺激を受けました。このように思いを共有する場が広まれば、多文化共生も達成できると感じました。普段このような機会はないのでとても貴重な体験ができ良かったです。

今回の講座を通じて世界に対する興味が深まり、どのように生きていきたいか考えることができました。これから知識を増やし異文化に積極的に関わることで、平和で豊かな社会をつくっていきたいと思いました。

生徒 T

様々な授業の中で一番心に残っているのは、佐藤久美先生の『『多文化共生社会 (Multicultural Coexistence Society)』を実現させよう』です。私は授業を受ける前からこの講座の募集チラシにあった「国際交流と多文化共生の違いを考えてみよう」という問いの答えが気になっていて、とてもわくわくしながら授業を受けていました。

私の家の近所には近くの工場に勤める人が多く住むアパートがあり、そこに住んでいる人たちの半分ほどがブラジル人です。私の中には日本に移住する外国人は中国人が多いイメージがあり、先生も授業の冒頭で「愛知県に多く住んでいる外国人住民は中国人だ」とおっしゃっていたので、何故ブラジル人が多く住んでいるのかが謎のままでした。グループ討議の時に、先生に何故ブラジル人が多く日本に住んでいるのかを聞いてみると、「日本人はブラジルまで出稼ぎに行ってブラジルの農業を発展させました。今ブラジル人の移民が多くなっているのは日本人たちの子孫が帰ってきているからです」とおっしゃっていました。そして、ブラジルはその名残から日系ブラジル人が多いことも教えていただきました。

今までは外国人の人を見るとなんとなく「怖いな」と思っていたのですが、先生のお話を聞いてからは積極的に挨拶をして、少しですがお話しするようになりました。こんな小さなことでも多文化共生への一歩になると考えると少し不思議な感じがしますが、他にもどんなふうに交流できるか考えたくなりました。そして、来年もこの講座があれば参加したいと思います。